



TITLE:

資本ノ概念

AUTHOR(S):

河上, 肇

CITATION:

河上, 肇. 資本ノ概念. 經濟論叢 1916, 3(1): 1-26

ISSUE DATE:

1916-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127053>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號一第

卷三第

論說

資本ノ概念

資本金子税設定ノ氣運

支那近代ノ戸口ニ就テ(一)

續正貨蓄積論

戸田博士ノ不換紙幣論ヲ讀ミテ

保險本質論(二)

雜錄

經濟雜話第四

聯合諸國輸出入禁制ノ我國ニ及ボス影響ニ就テ

對露輸出品代金ノ支拂決濟ニ就キテ

經濟戰爭ト我貿易上ノ利害

現前ノ大戰爭ニ就テノ感想

乳兒死亡率ト出生率トノ關係

らづれ「みる」學說ノ研究(二)

本多利明ノ經濟說ニ關シ本庄學士ノ教ヲ乞フ

米國ニ於ケル移民教育機關

補習教育義務ノ可否

法學博士 河上 肇

法學博士 神戶 正雄

文學博士 內藤虎次郎

法學博士 小川郷太郎

法學博士 福田 德三

法學士 小島昌太郎

法學博士 田島 錦治

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戶 正雄

法學士 河田 嗣郎

文學士 米田庄太郎

文學士 高田 保馬

商學士 大塚金之助

法學博士 福田 德三

山本美越乃

法學士 財部 靜治

(載 轉 禁)

經濟論叢

第二卷 第一號

(通卷第十三號)

大正五年七月發行

論

說

資本ノ概念

河 上 肇

(一)緒言―(二)資本ハ交換財ヨリ成ル―(三)資本ト一般の購買力(貨幣價值)―(四)資本ノ構成分子トシテノ信用―(五)資本ノ放下―(六)資本ハ浮キ上リ居ル購買力ナリ―(七)資本ハ物財ニ非ズ財產ナリ―(八)資本ハ剩餘ナリ―(九)經濟上ニ於ケル資本ノ作用

一、緒 言

かゝる・くに―すハ營テ其蓄貨幣論ニ於イテ次ノ如ク述ベタコトガアル。

『以上述べ來リシ所ニ依ツテ考フレバ、經濟學上資本ナル用語ニ依ツテ理解サル所ノ對象物ハ、最初ヨリ今日ニ至ルマデ引續キ不確ナルモノナルコト、及ビテ、ゆゑニモあだむすみすモ、せぬモみるモ、へるまんモらうモろつしゑるモ、まくれにぞモしゆたいんもしゑふれーモ、其他何人モ、自己ノ採リタル資本ノ意義ハ經濟學上通用スル所ノ『資本』ニシテ、又自己ノ試ミタ

ル資本ノ分析ノミ正シク他ハ凡テ誤ナリト主張スルノ權利ヲ有セザルモノナルコトハ、苟クモ事物ヲ公平ニ觀察スル者ノ否認シ得ザル所デ有ラウ。⁽¹⁾

くに「すガスク宣言セシヨリ今日ニ至ルマデ既ニ三十餘年ヲ經過シテ居ルガ、資本ノ意義ノ統一サレザルコトハ、當時モ今モ別ニ變リハ無イ。又ニコるそんハ嘗テ其著『經濟原論』ニ於イテ次ノ如ク述ベタコトガアルガ、

『資本ノ意義及ビ作用ニ就イテハ既ニ澤山ノ冊子ガ書カレタ。ソウシテ經濟雜誌ニ依ツテ見ルト、今日モ猶澤山ノ冊子ガ書カレツツアルガ、將來モ亦引續キ書カレルコトデ有ラウ。併シ實テ言ヘバ、畢竟之ハ資本ガ最も廣大ナル關係ヲ有スル概念ノ一タルコトヲ示スニ過ギヌノデ、寧ロ當然ノコトデアル。』⁽²⁾

果シテ氏ノ言ノ如ク、爾來今日ニ至ルマデ僅カ十數年ノ間ニ於イテモ、資本ニ關スル論著ハ實ニ渺カラズ殖エタ。乍併、其ノ何レニモ一長一短アリテ、種々ノ學者ガ種々ノ異說ヲ立ツレバ立ツルホド、問題ハ寧ロ益々紛糾セルヤノ觀ガアル。コレ吾人が茲ニ此小篇ヲ艸シテ諸說ヲ綜合シ、加フルニ若干ノ新意ヲ以テシ、概念ノ統一ニ向ツテ多少ノ貢獻ヲ爲サント企ツル所以デアル。

論ハ之ヲ二部ニ分チ、先ツ第一部ニ於イテハ主トシテ諸家ノ議論ニ就キ之ガ歴史的批評の記述ヲ爲シ、然ル後第二部ニ於イテ是等諸說ノ長所ヲ綜合シタル結果トシテ生マレタリト信ズル所ノ自說ノ解説ヲ爲ス豫定ナリシモ、紙面ニ限リアリテ一時ニ之ヲ載スコト能ハザルガ故ニ、今本篇ニ於イテハ先ヅ主トシテ自說ヲ述ベ、後日之ガ續篇ニ於イテ歴史的批評の記述ヲ公ニスル積リデ

(1) Karl Knies, Das Geld, 2 Aufl. (1885), S. 38.

(2) Nicholson, Elements of Political Economy, 1903, p.41.

アル。請フ、讀者ノ具ハラザルヲ咎メラレザランコトヲ。

二、資本ハ交換財ヨリ成ル

資本トハ浮キ上リ居ル所ノ一般的購買力ヲ有スル剩餘財産ノ謂デアル。俗ニ資本ヲ下ロスト謂ヒ、又ハ資本ノ放下或ハ投下、又ハ簡單ニ放資或ハ投資ナド謂フハ、即チ其ノ浮キ上リ居ルモノヲ引キ下グルノ謂ニ外ナラヌ。而シテ或ハ之ヲ引キ下ゲ或ハ之ヲ浮キ上ラシメ、放下ト回收ト交之ヲ繰返スコトヲ名ケテ、資本ノ運轉ト謂フ。俗ニ資本ヲ下ロスト言フハ、誠ニ含蓄多ク、言ヒ得テ妙、髓ニ資本ノ本質ニ觸レタル言葉デアル。之ヲ放下ストカ回收ストカ乃至運轉スト云フコトハ、凡テ資本ニ限ラレタル用語ニシテ、普通ノ財ニ關シテハ斯カル問題ハ全ク起ラズ。而シテ余ノ見ル所ニ依レバ、資本ノ本質ハ正ニ斯カル方面ニ於イテ其一端ヲ擱ミ得ベキモノデアル。而カモ此方面ノコトハ、從來ノ學者ニ依ツテ殆ド看過サレ來リシモノ。從ツテ此小篇ハ主トシテ力ヲ此方面ノ事情ノ闡明ニ注グ。

茲ニ浮キ上リ居ル一般的購買力ト謂フハ、其購買力ガ何等ノ享樂財又ハ生産財ニ放下サレ具體サレ居ラザルコトヲ意味スル。サレバ資本ハ勿論享樂財ヨリ成リ立タズ、又生産財ヨリ成リ立タズシテ、専ラ交換財ヨリノミ成リ立ツモノデアル。

抑、財ヲ分テ享樂財⁽¹⁾及ビ生産財⁽²⁾ノ二種ト爲スハ今日ノ通説ナレドモ、其外別ニ交換財ノ一曰ヲ設クベシトスルハ、余ガ本篇ニ於ケル新タナル主張デアル。茲ニ享樂財トハ食物、衣服、住家ノ類ニシテ直チニ吾人ガ享樂ノ用ニ供ジ得ベキモノヲ謂フ。(經濟學ニテハ享樂ト云フ語ヲ極メテ廣義ニ用フ。從ツテ娛樂ト云フガ如キ狹キ意味ノモノニハ非ズ。經濟的欲望——即チ物ソノモノヲ得タシトノ欲望——以外ノ欲望ヲ充ス爲ニ、財ノ便益ヲ享受スルコトヲ名ケテ、廣ク之ヲ享樂ト謂フノデアル。)又生産財トハ道具、機械、原料ノ類ニシテ、其物自身ハ直チニ吾人ガ享樂ノ用ニ供ジ得ベカラザルモ、他ノ享樂財ヲ作り出ス爲ノ手段トシテ必要視セラルルモノヲ謂フ。而シテ余ガ是等享樂財及ビ生産財ノ外ニ別ニ交換財ト謂フハ、之ヲ交換ノ用ニ供ズルコトニ依リテノミ吾人ノ經濟的欲望——即チ物ヲ得ントスルノ欲望——ヲ充シ得ルノ財デアル。而シテ資本ナルモノハ、前ニ一言セシ如ク、斯カル交換財ヨリノミ成リ立ツモノデアル。サレバ交換財ノ性質ヲ明カニスルハ、總テ資本ノ本質ヲ明カニスルノ第一歩デアル。

換物的ノ交換財ハ貨幣ナレバ、交換財ノ性質ヲ明カニスルガ爲ニハ、先ヅ貨幣ニ就イテ考フルガ便利デアル。思フニ今日ノ經濟社會ニ於イテハ享樂財モ生産財モ直チニ其生産者ニ依リテ消費サルルコトハ稀ニシテ、多クハ一旦生産者ノ手ヲ離レ幾度カ其所有主ヲ變更スルモノナレドモ、併シ最後ニハ必ズ何人カノ手ニ留ツテ、或ハ享樂ノ爲メ或ハ生産ノ爲ニ消費サルベキモノデアル。然ルニ貨幣ナルモノハ、ソガ貨幣タルノ性質ヲ喪ハザル限り、飽クマデモ其所有主ヲ變更スベキ

- (1) Consumption goods, enjoyable goods, direct goods, primary goods, goods of the first order, Güter erster Ordnung.
 (2) Production goods, indirect goods, secondary goods, goods of a higher (or superior) degree, Güter entfernterer Ordnung.

運命ヲ有シ、何人ノ所ニモ永久ニ留ツテ其處デ消費サレテ仕舞フト云フコトハ無イ。凡テ財ハ何人カノ手ニ留ツテ消費サルルガ爲ニ生産サルルモノナレドモ、獨リ貨幣ハ之ガ例外ニテ、何人ノ手ニモ留ラズ常ニ各個人ノ間ニ流通センガ爲ニ生産サルルモノデアル。此點ニ於イテ貨幣ハ享樂財ニモ屬セズ將タ生産財ニモ屬セズ、是等ノモノト相並ンデ財ノ三部門ノ一タルベキ交換財ニ屬スルモノデアル。

吾人ガ享樂財ヲ必要トスルハ、之ヲ消費シテ一定ノ享樂ヲ得ンガ爲デアル。此點ニ於イテ貨幣ハ一般ノ享樂財ト根本的ニ其性質ヲ異ニシテ居ル。尤モ考ヘヤウニ依リテハ、吾人ガ貨幣ヲ必要トスルモ亦、之ヲ使用シテ一定ノ享樂ヲ得ンガ爲ニテ、何等ノ差異ナキガ如クナレドモ、實ハ其間ニ重大ナル區別ガアル。蓋シ享樂財ニ在リテハ、之ヲ消費スルコト其ノコトガ享樂ヲ受クル所以ニシテ、例ヘバ食物ナラバ之ヲ食ヒ、衣服ナラバ之ヲ着ルコトニ依ツテ、吾人ハ直チニ一定ノ享樂ヲ受クル。然ルニ貨幣ノ場合ハ之ト異リ、之ヲ使用スルト云フコト（貨幣ヲ支出シテ他人ヨリ物ヲ買取ルト云フコト）ハ、食物ヲ食ヒ衣服ヲ着ルト云フト異リ、其事自身ハ吾人ノ享樂ニ何等ノ關係モ無イ。吾人ガ享樂ヲ受ケ得ルハ、貨幣ヲ消費又ハ使用シタル結果トシテ吾人ノ入手シ得タル食物ナリ衣服ナリヲバ消費又ハ使用スルガ爲デアル、即チ享樂ハ貨幣ヲ消費スルガ爲ニ起ルニ非ズシテ、食物衣服ヲ消費スルガ爲ニ起ルノデアル。

又吾人が生産財ヲ必要トスルハ、之ヲ以テ享樂財ヲ生産スル爲ノ手段ト爲サンガ爲デアル、例ヘバ吾人が織物機械ヲ必要トスルハ、之ヲ以テ織物ヲ生産センガ爲デアル。而シテ考ヘヤウニ依リテハ、吾人が貨幣ヲ必要トスルモ亦、享樂財ヲ生産スル爲ノ手段ト爲サンガ爲ニ外ナラザルガ如ク見ユル。何故トナラバ、吾人が貨幣ヲ必要トスルハ之ヲ以テ他物ヲ購買センガ爲ニシテ、而シテ賣買ニ依ツテ新タニ他物ヲ入手スルコトハ、之ヲ個人ノ立場ヨリ云ヘバ、矢張り一種ノ生産方法ニ過ギヌカラデアル。乍併、能ク考フレバ、二者ノ間ニハ實ハ重大ナル區別ガアル。蓋シ吾人が機械ヲ利用シテ織物ヲ生産スト云フ場合ニハ、其機械ハ之ガ利用ニ從ツテ次第ニ其價值ヲ減減スルトシテモ、兎モ角機械ソノモノハ引續キ生産者ノ所有權又ハ使用權ノ支配ノ下ニ屬シツツアルノデ、機械ノ利用ト其所有權ノ移動トハ決シテ必然的ノ關係ヲ有ツテ居ル譯デハ無イ。又織物ノ原料タル綿花ナリ紡績ナリハ(是等ノモノモ機械ト同ジク生産財ノ一種タリ)、織物ノ生産ノ結果トシテ全ク無クナツテ仕舞フニシテモ、其ハ只物理的ニ無クナルダケデ、其ガ生産者ノ手ヲ離レテ新タニ他人ノ所有權ニ屬スルニ至ル譯デハ無イ。然ルニ貨幣ノ場合ハ之ト全ク異リ、若シ或人ガ之ヲ手段トシテ他物ヲ入手スルナラバ、其ト同時ニ、其貨幣ハ其人ノ所有ヲ離レテ他人ノ所有ニ歸シテ仕舞フ。貨幣ハ一旦之ヲバ他物入手ノ手段ニ利用スルナラバ、(之ヲ貸借ノ用ニ供ズル場合モ畢竟ハ同ジコトナレドモ、煩雜ニ流ルルガ故ニ姑ク之ヲ無視シ置ク)、必ズ其利用者ノ手ヲ離ルルト同時ニ、物理的ニハ毫モ

其形狀ヲ變ズルコトナク依然舊態ヲ維持シナガラ、(Mr. de Lannay ノ計算ニ依レバ、一個ノ金貨が流通ノ爲メ磨損ニ依リ全ク減滅シテ仕舞フニハ約八千年ガカルト云フ)⁽³⁾ 新タニ他人ノ所有ニ歸シテ仕舞フ。サレバ一切ノ生産財ハ何等カ或特定ノ人ノ手ニ留マリ其人ニ利用セラルルコトニ依リ、其人ノ所ニ於イテ遂ニ一命ヲ終フルニ至ルモノナレドモ、貨幣ハ之ト異リ、此ノ如キ特定人ヲ其ノ一生ノ主人トスルコトナク、從ツテ何人モ貨幣ソノモノヲ自己ノ手ニ於イテ消費シ盡スモノハ無イ。

以上述ブル所ニ依ツテ見レバ、貨幣ナルモノガ享樂財ニモ屬セズ將タ生産財ニモ屬セザルコトハ、略ボ明瞭ニ爲ツタと思フ。余ハ斯カル事情アルガ故ニ、享樂財及ビ生産財ノ外ニ別ニ財ノ一種トシテ交換財ナル一目ヲ設ケントスル者デアル。乃チ茲ニ交換財ト謂フハ、交換ノ用ニ供ゼラルルコトノミヲ以テ其生命トスル財ヲ指ス。言フ迄モナク今日ノ經濟社會ニ於イテハ、享樂財モ生産財モ交換ノ用ニ供ゼラレザルモノハ殆ド無イ。食物モ衣服モ、道具モ機械モ、之ガ生産者ハ之ヲ交換ノ用ニ供ジ以テ他物ヲ入手スルノ手段ト爲サンガ爲ニ之ヲ生産シツアル。乍併、是等ノ財ハ交換ノ用ニ供ゼラルルコトノミヲ以テ其生命トスルモノデハ無イ。換言スレバ、是等ノ財ハ固ヨリ交換價值ヲ有スト雖モ、之ト同時ニ使用價值ヲモ有スル。否ナ其使用價值ヲ有スト云フコトガ本來是等ノ財ノ生命トスル所ニテ、畢竟是等ノ財ニ交換價值アルハ使用價值アルガ爲ニシテ、或ハ一步ヲ進メテ言ヘバ、是等ノ財ハ縱ヒ交換價值ナクトモ財タルヲ妨ゲザルモノデアル。然

(3) Withers. Meaning of money, 1903, p. 12.

ルニ余ノ特ニ名ケテ交換財ト謂フモノハ、例ヘバ貨幣ノ如ク、交換價值ノミヲ以テ其生命ト爲セル財ニシテ、從ツテ其特徵ハ全ク何等ノ使用價值ヲ有セズ、單ニ交換價值ノミヲ以テ其生命トスルモノナレドモ、其代リ、ソガ自由ニ他物ト交換セラルルノ融通性(一般的受授性 general acceptability)ニ至ツテハ、到底他ノ享樂財乃至生産財ノ及ブ所ニ非ズシテ、總テソガ所謂交換ノ媒介物タル作用ヲ完ウスルニ至ル所以デアル。サレバ一般ノ享樂財及ビ生産財モ、ソガ或程度ニ於イテ他物ト交換セラルル限リハ、其限度ニ於イテ固ヨリ或範圍ノ購買力ヲ有スル譯ナレドモ、而カモ一般的購買力ヲ有シ得ルハ獨リ交換財ニノミ限ラル。

三、資本ト一般的購買力(貨幣價值)

享樂財生産財及ビ交換財ノ區別ハ上述ノ如シ。而シテ資本ナルモノハ凡テ交換財ヨリノミ成リ立ツモノナレバ、其結果、浮キ上リ居ル所ノ一般的購買力ヲ有スト云フコトハ、自ラ資本ノ一特性ト爲ル。資本ハ交換財ヨリ成ルト云フモ、浮キ上リ居ル所ノ一般的購買力ヲ有スト云フモ、實ハ只同ジ事ヲ別々ノ見地ヨリ言ヒ表ハセシニ過ギヌ。即チ前者ハ資本ヲ構成スル財ノ種類ヲ指定シ、後者ハスカル種類ノ財ノ特性ヲ指摘セシニ外ナラス。

茲ニ一般的購買力ヲ有ストハ、社會一般ニ通用スル所ノ一定ノ交換價值ヲ有スト云フコトニ

テ、而シテ此ノ如キ交換價值ハ今日ノ經濟社會ニ於イテハ凡テ一定額ノ貨幣ヲ以テ表示サレ居ルガ故ニ、斯カル關係ヨリシテ、資本ト貨幣又ハ價值(貨幣價值)トノ間ニハ離ルベカラザル密接ノ關係アリ。資本ヲ論ズル殆ド凡テノ學者ガ、資本ト貨幣トノ同一視スベカラザルコトヲ注意セルモ、畢竟ハ二者ノ間ニ此ノ如キ密接ナル關係アルガ爲ニシテ、又古クハテゆるじ、新クハめんが、くらく、近クハたつとる、ふいしや、ふえたゝ等ガ、其言葉ノ内容ニハ多少宛ノ相違ハアレ、資本ハ即チ價值ナリナド云ヘルハ、畢竟貨幣價值ヲ離レテ資本ナキガ爲デアル。

此ノ如ク資本ナルモノハ社會一般ニ通用スル所ノ一定ノ貨幣價值ヲ有シツツアル財産ナルガ故ニ、場合ニ依リテハ斯カル價值ヲ有スルコトヲ財ノ資本性ト謂ヒ、又財ハ斯カル價值ヲ有スル度合ノ強マルニ從ツテ次第ニ資本化セラルトモ謂フ。例ヘバ近世ニ入リテヨリ土地ハ次第ニ資本化セラルルノ傾向アリナド云フハ、即チ土地ガ漸次動産化セラルルニ至ルト云フ意味デアル。尤モ現時ノ經濟社會ニ於イテモ、土地ソノモノハ未ダ貨幣又ハ貨幣ノ代用物ト爲リ得ザルモノナルガ故ニ、完全ナル資本性ヲ有スル土地又ハ完全ニ資本化サレタル土地ナルモノハ、今日ト雖モ決シテ存在シテ居ルノデハ無イ。併シ昔ニ比ブレバ土地ノ賣買ハ次第ニ可能ニナリ、容易ニナリ、且頻繁ニ行ハレルコトト爲リタルガ爲、土地ノ大サノ如キモ昔ハ單ニ其面積ヲ以テ言ヒ表ハサレ居タルニ過ギザレドモ、今日ハ之ト同時ニ貨幣價值ヲ以テ秤量セラルル場合モ少クナイ。今之ヲ名

ケテ土地ハ次第ニ資本化セラルルノ傾向アリト云フノデアルガ、其ノコロハ土地ガ次第ニ融通性(即チ資本性)ヲ有ツテ來テ、何時デモ若干ノ貨幣ト交換セラレ得ルコトニ爲ツタト云フコトデアル。學者或ハ此間ノ消息ヲ誤解シテ、如何ナルモノニテモ或人ガ其價値ヲ貨幣ニテ秤量スル時ハ、只其事ノミニ依リテ其物ハ即チ資本トナルト云フガ如クニ説明スルモノアレドモ、ソハ恐ラク誤謬デアル。例ヘバ余ガ一定面積ノ土地ヲ有スル時、余自ラ其價幾何ナリト評價シタリトテ、若シ其土地ガ其價格ヲ以テ何時ニテモ他人ニ賣却サレ得ルト云フニ非ザレバ、其ハ全ク無意味デアル。即チ其評價ハ社會一般ニ通用スルニ至ツテ始メテ意味ガアルノデ、又人ハ斯カル意味ヲ有スルニ至フザル限り、本來決シテ物ノ貨幣價値ヲ考慮ニ入レザルモノデアル。賣却ヲ目的トセザル圖書館ノ書籍ガ單ニ冊數ヲ以テ計算セラレツツアルガ如キハ即チ其一例デアル。之ニ反シ資本ノ構成分子タル交換財即チ貨幣及ビ貨幣ノ代用物ニ至ツテハ、其物ノ個數ヲ計算スルコトガ同時ニ其貨幣價値ヲ秤量スル所以ト爲ル。詳言スレバ、土地又ハ書籍ノ如キハ是等ノ物ト貨幣トノ間ニ於ケル交換比例ヲ見、然ル後始メテ土地ハ何千圓也書籍ハ何拾錢也ト云フヤウニ其貨幣價値ヲ秤量スルコトヲ得ルモノナレドモ、貨幣乃至其代用物ニ至ツテハ最初ヨリ何千圓トカ何拾錢トカ云フ貨幣價値ヲバ其物自身ニ有シテ居ルノデアル。サウシテ其ガ即チ資本ノ特色デアル。

四、資本ノ構成分子トシテノ信用

既ニ述ベシ如ク、資本ハ交換財ヨリ成ルモノニシテ、而シテ此交換財ニ屬スルモノハ貨幣及ビ貨幣ノ代表物デアル。茲ニ貨幣ノ代用物ト謂フハ所謂信用ノ一種ニシテ、而シテ經濟學上信用ト謂フハ畢竟一定額ノ貨幣ヲ要求スルノ權利ニ外ナラス。(其權利ヲバ何等カ形アルモノニ言ヒ表ハシタル時ハ、其物ヲ名ケテ信用證券ト謂フ)。凡テノ信用ハ一定ノ購買力ヲ有ヘ。詳言スレバ、吾人ハ將來一定額ノ貨幣ヲ支拂フベシトノ約束ヲ爲スコトニ依リ、——即チ將來一定額ノ貨幣ヲ要求スルノ權利ヲ他人ニ與フルコトニ依リ、——一定ノ財ヲ購買シ、又ハ現在直チニ一定額ノ貨幣ヲ入手シ得ルモノデアル。乍併、貨幣ト殆ド同ジ程度ニ、一般的購買力ヲ有スルモノハ、信用ノ全部ニ非ズシテ其一種デアル。即チ預金通貨 (deposit currency) ト稱セラレツツアル銀行ノ當座預金ニシテ、コノモノハ小切手ト稱セラルル特種ノ信用證券ニ依リ廣ク人々ノ間ニ流通シ、能ク貨幣ノ代用ヲ爲シ得ルモノデアル。

今日ノ文明國ニ於イテハ、取引ノ大部分ヲ占ムルモノハ信用取引デアル。例ヘバ英國ニ於イテハ、全國ヲ通ジ卸賣取引ニアツテハ、現金取引ハ約二ば一せん⁽⁵⁾ニ過ギザルベシトノコトデアリ、米國ニ於イテハ、⁽⁶⁾いしやノ詳細ナル研究ニ依ルニ、卸賣小賣凡テヲ通ジ、現金取引ハ全國平均八ば一せん⁽⁷⁾ニ過ギザル有様デアリ、我國ニ於イテモ六大都市ニ於ケル卸賣取引ハ、約其三十三ば一せん⁽⁷⁾ガ現金ニ依ルニ過ギザル有様デアル。即チ資本ノ内容ヲ構成セル一般の購買力ヲ有スル財ノ大部分ハ、貨幣ノ形ニ於イテ存在スルニ非ズシテ、多クハ信用ノ形ヲ採リツツアルノデアル。サレバ資本ノ本質ヲ明カニセンガ爲ニハ、必ズ信用ノ本體ヲ研究スルノ必要ガアル。

抑々信用ナルモノハせしむすすてゆあーとノ言ヒシ如ク、富ヲ貨幣ニ溶解シテ仕舞フコト (melting down of wealth into bank money) デアル。らふりんノ言葉ヲ借レバ『信用ナルモノハ、特種ノ財ニ對スル支配ヲ變ジテ、一般ノ財ニ對スル支配タラシメ得ルモノデアル。即チ信用ナルモノハ、人々ヲシテ其財産ヲ支拂ノ手段ニ鑄造 (coin property into means of payment) セシメ得ル所ノモノデアル』⁽⁸⁾ 今是等ノ言葉ヲ余ノ用語ニテ言ヒ直サンカ、畢竟信用ナルモノハ、人々ヲシテ其財産ヲバ資本化セシムルノ作用ヲ有スルモノデアル。例ヘバ茲ニ『或商店アリテ一萬弗ノ棉布ヲバ三ヶ月後支拂ノ約束ニテ仲買人ニ賣却シタリトスル。此場合ニ、若シ利用シ得ル所ノ資本ガ其商店ナリ又ハ會社ナリノ現ニ所有シツツアル資本ニ限ラルナラバ、事業ハ是ガ爲ニ制限サレナケレバ爲ラス。乍併、若シ彼等ガ其ノ賣却シタル財ヲ土臺トシテ、他ヨリ一定ノ資本ヲ借入ルルコトヲ得タリトセンカ、彼等ハ現ニ仲買人ノ所持シツツアル棉布ヲ支拂ノ手段ニ鑄造シ得タル譯ニテ、彼等ハ之ニ依ツテ新タナル原料ヲ買ヒ入レ、新タニ勞働者ヲ雇ヒ入レ、以テ其生産物ヲ増加シ得ルノデアル。此場合ニハ、賣ラレタ財ガ貸借成立ノ基礎ト爲ルノデアツテ、之ニ依リテ銀行ハ九十日後ニ一萬弗ヲ受取ルノ權利ヲ買ヒ取り、商店ハ其ノ代リニ要求次第一萬弗 (之ヨリ割引額ヲ減ジタル額) ヲバ銀行ヨリ引き出スノ權利ヲ得ル。……此ノ如クニシテ、棉布——財ノ一種——ニ對スル支配ハ、變ジテ棉花及ビ機械——其時ニヨリ多ク希望セラルル所ノ他種ノ財

(8) Langblin, Principles of Money, 1903, p. 79.

ニ對スル支配ト爲ル。即チ其商店ハ、銀行ニ依リテ棉布ヲバ支拂ノ一般的手段ニ鑄造シ、カクシテ得タル購買力ヲバ、欲スルガママニ分割シテ欲スルガママノ財ヲ獲得スル爲ニ振り向ケ得ルコトニ爲ルノデアル⁽⁹⁾』

以上述べタル所ニ依ツテ考フレバ、如何ニ信用取引ノ發達ガ諸種ノ財ノ資本化ヲ助ケツツアルカガ分ル。而シテ此事ハ、資本化サル所ノ財ソノモノヲ以テ即チ資本ナリト爲スノ誤解ヲバ、最モ誘ヒ易キ原因ナレドモ、財ソノモノハ實ハ信用(即チ資本)成立ノ根據タルニ過ギザルモノニテ、資本タリ得ルモノハ只信用(即チ一定額ノ貨幣ヲ要求シ得ルノ權利)ノミデアル。之ヲ前掲ノ一例ニ就イテ云ヘバ、賣フレタル棉布ハ資本デハナイ。又銀行ヨリ借入レタル資金ニテ新タニ買入レシ棉花及ビ機械モ亦資本デハナイ。只製造業者ノ手ニアル棉布ヲフ特種ノ財ガ、棉花及ビ機械ヲフ他ノ特種ノ財ニ代ハル仲間ニ立チテ、之ガ交換ノ媒介物タル作用ヲ爲ス所ノ信用ノミガ、獨リ一般的購買力ヲ有スル交換財ニシテ、其ガ即チ資本ナノデアル。

五、資本ノ放下

此ノ如ク資本ナルモノハ一般的購買力ヲ有スル交換財ナルガ故ニ、資本ソノモノハ享樂ノ用ニモ將タ生産ノ用ニモ立ツモノニ非ズ。故ニ資本ニハ必ズ之ガ放下ノ問題起ル。茲ニ資本ノ放下ト

(9) Langlin, *Ibid*, pp. 79, 80.

ハ、之ガ一般の購買力ヲ利用シテ生産又ハ營利事業ニ必要ナル諸般ノ財ヲ獲得スルノ謂デアル。例ヘバ或人ガ一定ノ工業ヲ起サントスルモ資本ナキガ故ニ能ハズト云フハ、敷地ヲ借り入レ機械原料ヲ買ヒ入レ勞働者ヲ雇ヒ入ルルニ必要ナル資力ヲ有ヤスト云フ意味ニシテ、其場合ニ他ヨリ資本ヲ借り入ルト云フハ、其ノ所要ノ一般の購買力ヲ借り入ルト云フ意味デアル。而シテ既ニ其ノ所要ノ一般の購買力ヲ有スルニ至ランカ、彼ハ之ヲ以テ土地ノ使用權、機械、原料及ビ勞働等ヲ買入ルルニ至ルモノニテ、其ガ即チ資本ノ放下ナルモノデアル。但シ資本ハ必ズシモ生産又ハ營利ノ用ニ供スルガ爲ニノミ借り入レラルルモノニ非ズシテ、例ヘバ學資又ハ漫遊費等ヲ調達セシガ爲ニ借り入レラルルコトモアル。而シテ借り入レタル資本ヲ斯カル目的ニ使用スルコトハ單純ナル資本ノ消費ニシテ、正ニ資本ノ放下ト區別スベキモノデアル。資本ノ放下ト云フハ、縱ヒ資本ノ一般の購買力ヲ化シテ特種ノ財ト爲セリトモ、其ノ特種ノ財ハ之ヲ生産又ハ營利ノ用ニ供ジツツアル場合ニ限ルノデアル。

何故ニ資本ノ用途ニ依リテ、或場合ハ之ヲ資本ノ消費ト謂ヒ、或場合ハ之ヲ資本ノ放下ト謂フヤト云フニ、後ノ場合ニハ、縱ヒ資本ハ既ニ化シテ特種ノ財ト爲リ居レリトハ云ヘ、是等特種ノ財ハ生産又ハ營利ノ用ニ供セラレツツアルヲ以テ、一旦使用サレシ購買力モ全ク失ヒ去ラレシニハ非ズシテ、復ビ之ヲ回收スルノ可能ト期待ガ存在シテ居ル爲デアル。即チ資本ノ利用者ハ其ノ

一般的購買力ヲバ既ニ手離セシトハ云へ、復ビ之ヲ恢復スルノ期待ヲ有シツツアルガ故ニ、一般的購買力(即チ資本)ハ暫ク具體的ナル諸種ノ財ニ放下サレアリト見ルノデアル。放下ト云フ用語ノ中ニハ後ニテ之ヲ引キ戻シ得ル意味合ヒヲ含メルガ、事實資本(即チ一般的購買力)ハ一旦之ヲ放下スルモ、多クノ場合ニハ復ビ之ヲ引キ戻シ得ルノデアル。他ノ財ニハ放下ト云フコトナキニ、資本ニ限り其事アルハ、資本ノ本體ガ一般的購買力ニ存スルコトノ消息ヲ表明スルモノデアル。

此ノ如ク資本ハ之ヲ放下スルモ復ビ之ヲ回收シ得ルモノナルガ故ニ、凡テノ學者ハ此ノ間ニ於イテ資本ノ本質ヲ見失ヒ、資本放下ノ結果、ソノ一般的購買力ハ特種ノ財ニ具體サレテ既ニ資本タル性質ヲ失ヒ居ルニ係ラズ、猶其ノ特殊ノ財ソノモノヲ以テ資本ト爲スノ誤解(余ヨリ見テ)ニ陷ルニ至リシモノデアル。古クハてゆるじ、近クハくらゝ、めんがー等ノ豪傑ハ、資本ヲ以テ價值ト爲ス點ニ於イテ明カニ資本ノ本性ヲ洞見シナガラ、惜イ哉資本放下ノ結果トシテ存在セル生産財(くらゝノ所謂資本財)ヲ以テ同ク資本ナリト爲セシガ爲ニ、遂ニ蹉過シ了ル。例ヘバくらゝハ新タニ資本ト資本財トヲ區別シ、明カニ資本ヲ以テ常ニ貨幣價值ニ依リテノミ必ズ抽象的ニ表示サルベキモノト爲シナガラ猶資本ヲ以テ it is not abstraction, but an material entity (マン一ノ抽象物デハナクテ矢張り一ノ有形的存在ヲ有スルモノデアル)ト云ヒ、又 capital consists of instruments of production, and these are always concrete and material (資本ハ生産用具ヨリ成リ立ツ、而シテ是等ノモノハ常ニ

具體的且有形的ノモノテアル⁽²⁾」ナド説明セザルヲ得ザル窮地ニ陥リツツアル。たゞとるガ此ノ後ノ一句ヲ批評シテ、『若シ之ガ資本ナラバ、讀者ハ資本財トハ然ラバ何デアルカト云フ疑問ヲ起シ、最初ニハ、茲ニ資本トアルハ多分資本財ノ誤植ダラウト思フデ有ラウ』ト云ツタノハ、余モ亦同感デアル。而シテ此ノ如キハ畢竟くらゐガ、一旦資本ト資本財トヲ區別シナガラ、猶資本ノ下ロサレアル資本財ヲ以テ依然資本ト爲サントセルガ爲デアル。

六、資本ハ浮キ上リ居ル購買力ナリ

余ガ資本ヲ定義シテ特ニ『浮キ上リタル』一般的購買力ヲ有スルノ財産ナリト爲ス所以ノモノハ、凡テノ學者ノ混同シツツアル資本(capital)ト資本財(capital goods)トヲ區別センガ爲ニシテ、余ノ最モ重キヲ置ク點デアル。思フニあだむ・すみす以後最モ普通ニ行ハレタル定義ハ、資本ヲ以テ『過去ノ生産物ニシテ將來ノ生産ノ用ニ供ゼラルルモノ』ト爲スモノデアル。現ニ利子ノ學說史ノ上ニ一大時期ヲ劃シ、殆ド現代利子說ノ鼻祖タル地位ヲ占メツツアル⁽³⁾ぼえむ・ばねる⁽⁴⁾ノ如キモ、財ノ生産ノ手段トシテ役立ツ所ノ生産物ヲ總稱シテ資本ト謂ヒ、『財ノ獲得ノ手段トシテ役立ツ所ノ生産物』ヲ總稱シテ廣義ノ資本ト爲スト云フガ如クニ説明シテ居ル⁽⁴⁾。ソウシテ狹義ノ資本(即チ氏ノ所謂社會資本)中ニ包含サルモノトシテハ、(一)土地ノ上ニ加ヘラレタル生産上ノ政

(2) *Ibid.*, p. 116. (3) Tuttle, "The real capital concept," *Quarterly Journal of Economics*, vol. XVIII, p. 88.

(4) Böhm-Bawerk, *Kapital und Kapitalzins*, Zweite Abteilung: Positive Theorie des Kapitals, 1909, S. 21, 54.

良設備ニシテ土地ヨリ獨立ノ性質ヲ保留セルモノ、(二)凡テノ種類ノ生産上ノ鑿造物、(三)道具、
 機械及ビ其他ノ生産上ノ用具、(四)生産ニ使用サル所ノ役畜及ビ用畜、(五)生産ノ原料及ビ助
 成品、(六)生産者及ビ商人ニ依リ商品トシテ貯藏サレ居ル享樂財、(七)貨幣等ヲ舉ゲ、更ニ廣義ノ
 資本(即チ氏ノ所謂私的資本)中ニ包含サル、モノトシテハ、(一)社會資本ヲ構成スル凡テノ財、
 (二)其所有者自身之ヲ用フルコトナク實貸借ニ依リテ他ノ財ヲ獲得スル爲ニ充用スル所ノ享樂
 財等ヲ舉ゲテ居ル。⁽⁵⁾然ルニ余ハ、享樂財ハ勿論生産財ヲモ凡テ資本ニ非ズト爲シ、只余ノ所謂交
 換財ヲノミ資本ト爲スモノニテ、其點ニ於イテハ甚タ從來ノ通説ニ反スル次第デアル。現ニばえ
 む・ばはるゝガ資本トシテ列舉セシモノノ中ニハ、余ガ資本ノ内容ヲ構成スル最重要ナル分子
 ト爲セル信用ハ全ク除外セラレアルト同時ニ、氏ガ列舉セシモノノ中獨リ貨幣ヲ除カバ、他ハ盡
 ク余ノ見テ以テ資本ニ非ズト爲スモノデアル。思フニ此ノ如ク意見ノ根本的差異ヲ生ズルハ、只
 他ノ學者ハ何レモドロサレタル資本ヲ以テ猶資本タルヲ失ハズト爲セルニ反シ、獨リ余ハ資本ニ
 シテ既ニ放下サレ其物が特種ノ財ニ具體セラルルニ至ル以上、ソハ最早ヤ資本タルノ性質ヲ失フ
 モノ也ト爲スニ本ク。而シテ余ガ特ニ『浮キ上リタル』一般的購買力ト云フハ、專ラ此點ヲ明瞭ニ
 センガ爲デアル。

カク云ヘバ、余ガ意見ハ如何ニモ革命的ニ聞ユレドモ、昔ヨリ今ニ至ルマデ實際社會ニ於イテ

(5) *Ibid.* S. 130, 131.

(6) *Ibid.* S. 138.

ハ資本ナル語ヲバ常ニ余ガ茲ニ解説セルガ如キ意味ニ用ヒ來リタリト信ズル。又學者ノ中ニモ、資本ト貨幣價值トノ間ニ於ケル密接ナル關係ヲ看取セシモノニ在ツテハ、早クヨリ余ガ茲ニ説ケル所ト殆ド同様ノ説明ヲ爲シ居レリト信ズル。例ヘバめんガーノ如キモ現ニ、『資本ト云フ時ニハ、實業家モ法律家モ決シテ生産ニ要スル原料ヲ助成品ヤ又ハ商品ヤ機械ヤ建物等ノ財ヲ指スノデハ無イ。あたむ・すみす一流ノ術語ガ通俗ノ用語ニ影響ヲ及ボシテ居ラヌ限り、資本ト云ヘバ何時デモ一定ノ金額 (Geldbetrag) ヲ指シテ居ルノデアアル』ト説明シテ居ル。此ノ如ク氏ノ説明ハ明白ニ資本ノ本性ニ觸レテ居ルケレドモ、後ニ論ヲ進ムルニ從ツテ次第ニ其概念ヲ曖昧ニシ、遂ニ廣義ノ資本ヲ以テ『營利經濟ノ財産ニシテ貨幣ヨリ成リ立チ又ハ貨幣ニテ計算サル所ノモノハ凡テ一般ニ之ヲ資本ト謂フ』トナシ、營利ノ用ニ供セラレツツアル各種ノ財ヲ以テ凡テ資本中ニ包括セシメント爲シ居ルガ如キハ、偶々學問上ノ因襲ヲ打破スルコトノ如何ニ困難ナルヤヲ示スニ足ルモノト思フ。今余ガ説ハ、めんガー、くらしく等ノ本來ノ見解ヲ徹底セシメ、之ヨリシテ從來ノ因襲ヲ洗ヒ去リシダケノモノデアアル。凡テノ毛虫ハ化シテ蝶ト成リ、蝶ノ産ミタル卵子ハ又化シテ毛虫ト成ルガ如ク、多クノ場合ニハ資本モ變テ化シテ生産財ト成リ、其生産財ノ産ミタル財ハ又化シテ資本ト成ルヲ常トスレドモ、而カモ蝶ハ毛虫ニ非ザルト同ジク、生産財ソノモノハ決シテ資本デハ無イ。コレ余ガ浮キ上リ居ル一般的購買力ヲノミ資本ト謂ヒ、其ノ既ニ放

(7) Carl Menger, "Zur Theorie des Kapitaless," *Jahrbücher für Nationalökonomie und Statistik*, 51 Bd., (1888), S. 27.

(8) *Ibid.*, S. 41.

チ下ロサレテ特種ノ財ト成レルモノヲ除外スル所以デアル。

六、資本ハ物財ニ非ズ財産ナリ

余ガ資本ヲ以テ浮キ上リ居ル所ノ一般の購買力ヲ有スル財ヨリ成ルト爲ス趣意ハ、以上ヲ以テ粗ボ述べ了ヘタリト信ズル。然ルニ浮キ上リ居ル所ノ一般の購買力ヲ有スル財ハ、其ノ凡テガ資本ト成リツツアル譯デハ無イ。即チ資本ハ必ズ交換財ヨリ成レドモ、交換財ハ凡テ資本ト成ルノデハ無イ。是レ余ガ更ニ言葉ヲ進メテ、資本トハ浮キ上リ居ル所ノ一般の購買力ヲ有スル剩餘、財産ノ謂ナリト爲ス所以デアル。

先ヅ余ガ特ニ『財産』ノ語ヲ用ユル所以ハ、資本ナルモノガ全ク交換經濟上、私經濟上ノ概念タルコトヲ明カニセントスルノ趣意ニ本ク。蓋シ既ニ述べシ如ク、資本ナルモノハ余ノ所謂交換財ヨリ成ルモノナルガ、コノ交換財ナルモノガ抑々全ク交換經濟上、私經濟上ノ概念デアル。前ニ論ゼシ如ク、交換財ナルモノハ全ク交換ノ用ニ供ゼラルルコトノミヲ以テ其生命トナシ、何人ノ爲ニモ享樂又ハ生産ノ用ニ供ゼラザルモノデアル。サレバ凡テノ人類ヲ一全ノモノ (a whole) ト看做シテ之ヲ自然ニ對立セシムル時、ソコニ資本ノ觀念ヲ成立セシメ得ザルト同ジヤウニ、一家族ニ屬スル者ガ全然一經濟單位ヲ成シツツアルナラバ、家族各員相互ノ間ニ於イテモ資本ノ

觀念ノ發生スベキ餘地ハ無イ、人類全體ガ一團ト成ツテ自然ニ對スル時、人類ト自然トノ間ニ實
質ノ問題ガ起ラヌト同ジヤウニ、家族全體ガ一經濟單位ヲ成シツアル限り、夫婦親子ノ間ニ貸
借ノ問題ハ起ラヌノデアル。

若シ社會ニ財産私有ノ制度ヲ認メズ、個人ノ間ニ財ノ賣買ヲ認メザル以上、交換財タル貨幣ノ
必要ナキニ至ルト同時ニ、資本ナルモノモ亦存在ノ餘地ハ無イ。此意味ニ於イテたつとるノ言ヘ
ルガ如ク Capital is an individual concept, though it works socially. Social capital is a misnomer.
(資本ナルモノハ社會的ノ働キラ有シテハ居ルケレドモ、全ク個ハの概念デアツテ、社會資本
ナド謂フハ一ノ誤稱デアル)⁽¹⁾ノデアル。

而シテ余ガ茲ニ財産ト謂フハ財産權(廣義) (property) ノ意ニシテ物財ト云フト同ジカラズ、
即チ財(物財及ビ其便益并ニ人ノ勤勞)ヲ使用スル權利ヲ總稱シテ其ヲ財産ト謂フノデアル。物財
(Sachgüter)ハ英語ニテ富(wealth)ト謂フモノニ相當シ、一ノ物理的存在物(physical object)ナレド
モ、物財ノ便益(benefit)又ハ用(use)ト謂フハ一ノ物理的事件(physical events)デアル。而シテ財
産ナルモノハ是等ノモノヲ使用スル權利ニシテ、即チ人ノ物ニ對スル關係(relation of man to
things)デアル。⁽²⁾余ガ資本ヲ定義スルニ當リ、財ナル文字ヲ避ケテ特ニ財産ナル文字ヲ用ユルハ、
財ナル語ハ往々物財ト同義ニ用キラルコトアルガ爲デアル。資本ガ物理的存在ヲ有スルモノニ

(1) Tuttle, *Ibid*, *Quarterly Journal of Economics*, vol. XVIII, p. 91.

(2) Fisher, *Elementary Principles of Economics*, 1912, pp. 3-28.

非ズシテ、全ク人ト人トノ關係ニ本ク權利ナルコトヲ明カニセンガ爲デアル。

八、資本ハ剩餘ナリ

次ニ余ガ資本ヲ以テ『剩餘』ノ財産ト云フ所以ハ、一般の購買力ヲ有スル財産ノ中、剩餘トシテ殘サレタルモノノミガ始メテ資本ト成ルガ爲デアル。例ヘバ余ガ毎月百圓ノ貨幣所得ヲ得ツツアリトセンニ、其貨幣ハ明カニ一般の購買力ヲ有スル交換財デアルケレドモ、併シ其百圓ガ直チニ凡テ資本ト成ル譯デハ無イ。其百圓ノ中ヨリ衣食住其他日々ノ雜用ヲ支辨シ行キ、月末ニ至リテ若干ノ剩餘ヲ殘スナラバ、其剩餘トナリシ部分ダケガ始メテ日用ノ消費ヨリ解放サレタ一般の購買力ト成ルノデアツテ、其ガ即チ資本ナノデアル。

茲ニ剩餘(surplus)ト謂フハ、眼前(current, laufenden)ノ享樂ノ爲ニ要求サルル以上ノモノト云フ意味デアル。而シテ『眼前』ト云フハ畢竟『現在』ト云フト同ジコトナレドモ、假ニ眼前ナル語ヲ用キシハ、現在ト云フ語ニ比シ其意味ニ多少時ノ經續ヲ含蓄スルヤノ感ジアルガ爲ニ過ギヌ。嘗テふしやトハ current consumption (眼前ノ消費)・ト云フコトノ意味ヲ成サザル所以ヲ論ジテ、次ノ如ク述ベタコトガアル。

It is evident that wealth used for "current" consumption must mean either what has been or is to be consumed.

No definite amount can be contained in the "present"; for the present is only a point, and all consumption requires time. (3)

即チ現在ト云フモノハ一點時ニ過ギヌカラシテ、其一點時内ニ於イテ物ノ消費ト云フコトハ起リ得ナイ、サレバ物ノ消費ト云フ以上、其ハ必ズ過去ニ屬スルカ又ハ將來ニ屬スルノ外ハ無イ、ト云フ意見ナノデアルケレドモ、之ハ數學派ノ經濟學者タル氏ガ數學上ノ現在ト經濟學上ノ現在トヲ混同シタモノデアツテ、實ハ探ルニ足ラヌ議論デアル。乃チたつとるガ此批評ニ答ヘテ the economic present is a period rather than a point of time. (4) (經濟上ノ現在ハ一時點デハナクテ寧ロ一期デアル) ト云ヒ、又ソハ a species of what the psychologist calls the "specious present" (5) (心理學者ノ名ケテ「假想ノ現在」ト謂ヘルモノノ一種) デアルト云ヘルハ、當ヲ得タルモノト云ハザルヲ得ヌ。カクテたつとるハ經濟學上ノ現在ヲ定義シテ that unit of time that serves as the basis of organization in the individuals' economic life (6) (個人ノ經濟的生活ニ於ケル組織ノ基礎トシテ役立つ所ノ時ノ單位) ナリト云ヘリ。サレバ『手ヨリ口ヘ』ノ生活ヲ爲セル者ニトツテハ或ハ一日ガ現在ニナリ、月給取ニトツテハ一ヶ月ガ現在ニナリ、會社ヤ銀行ヤ國家等ニトツテハ半年又ハ一年ガ現在ニナル。例ヘバ國家ノ財政ノ如キモ、一ケ年ヲ以テ一會計年度トナシ、年度ノ末ニ於イテ收支ヲ決算シ始メテ剩餘(又ハ不足)ヲ生ズルニ至ルモノデアル。故ニ經濟學上現在ト云

(3) Fisher, "Precedents for defining capital," *Quarterly Journal of Economics*, vol. XVIII, (May 1904), p. 404.

(4) Futtler, "The fundamental notion of capital," *Quarterly Journal of Economics*, vol. XIX, (Nov. 1904), p. 86.

(6) *Ibid.*, p. 85.

フハ『全ク比較的ノモノデ、個人各自ニ定マルベキモノ』デアル。⁽⁷⁾ソハ兎モアレ、要スルニ資本ナルモノハ、現在ノ享樂ニ充當スルコトヨリ解放サレタル一般の購買力ニシテ、カノ資本ハ節欲又ハ貯蓄ニ依リテ生ズト云フ説明ノ如キ、又利子歩合ノ説明ノ爲メばえむ。ばるく以來多クノ學者ニ依リテ採用サレツツアル價値時差説（利子歩合ハ現在財ト將來財トノ價値ノ差ニ依ツテ決定セラルト云フ説）ノ如キ、畢竟資本ガ剩餘タルノ性質ヲ有スルヨリ生ジ來レルモノデアル。

九、經濟上ニ於ケル資本ノ作用

以上述べブルガ如ク資本ハ一ノ剩餘財産ナルガ故ニ、資本ソノモノハ之ヲ所有者ノ手ニ存スル限り、準備財産トシテノ外ハ何ノ役ニモ立タザルモノニテ、例ヘバ貨幣ソノモノハ之ヲ食フ能ハズ、之ヲ着ル能ハズ、又道具トシテモ器具トシテモ之ヲ使用スル能ハザル如クデアル。而カモ資本ハ既ニ剩餘ノ財産ナルガ故ニ、吾人ハ之ヲ他人ニ貸付クルコトニ依リテ、所謂利子ナルモノヲ收ムルコトヲ得。又之ヲ以テ自己ノ現在ノ享樂ニ關係ナキ生産財ヲ買ヒ入レ、之ニ依リテ他人ガ現在要求シツツアル各種ノ財ヲ生産シ（即チ企業ヲ營ミ）、以テ所謂利潤ナルモノヲ收ムルコトヲ得。コレ資本ガ多クノ人々ニ依リ單ニ準備ノ財産トシテノミナラズ、更ニ生産營利ノ目的ノ爲ニ要求サル所以ニシテ、又利子歩合ノ説明ノ爲メ所謂限界生産力説ナルモノガ、彼ノ價値時差説ト並

(7) T. ttle, *Ibid*, p. 87.

ビ行ハルル所以デアル。

資本ハ其所有者ノ手ニ存スル限り只一般の購買力ヲ有スルニ過ギザル單純ナル準備財産デア
ル。乍併、今日ノ經濟社會ニ於イテハ資本(例ヘバ貨幣)ヲバ單ニ自己ノ庫中ニ死藏スルモノ――
自由資本(free capital)トシテ永續的ニ所有シ居ルモノ――ハ甚ダ稀ニシテ、多クハ之ヲ他人ニ貸
付クルカ、又ハ自ラ之ヲ生産營利ノ事業ニ放下スルヲ常トスルモノデアアル。而シテ之ヲ借り入ル
ル者ハ、例ヘバ國家ガ軍備又ハ戰爭ノ費用ヲ支辨スル爲ニ公債ヲ募集スル場合ノ如ク、全ク之ヲ
不生産的事業ニ消耗シ去ルコトアレドモ、普通ハ之ヲ生産營利ノ事業ニ放下スルモノデアアル。(然
ラズンバ之ヲ返却スルニ多大ノ困難アリテ、貸主借主共ニ迷惑スルニ至ルガ普通ナルガ爲デア
ル)。併シ資本ハ如何ニ使用セラルルトモ、資本タルニ於イテ何等差支ナキモノニテ、譬ヘバ米ハ
飯トナルモ糊トナルモ將タ酒トナルモ、米タルニ於イテ何等ノ變リナキガ如クデアアル。而シテ國
民經濟上ニ於ケル資本ノ意義ハ、之ガ利用者(普通ニ之ヲ資本家ト謂フ)ハ社會ノ剩餘ヲ自由ニ處
分スルノ權利ヲ有スルニ至ルト云フ點デアアル。例ヘバ資本ヲ有スル者又ハ有シ得ル者ガ戰爭ニ反
對スルナラバ、國家ハ戰爭ヲ起シ得ザルベク、又彼等ガ學校ヲ建テ寺院ヲ建ツルコトニ不同意ナ
ラバ、學校モ寺院モ建築サレザルベク、之ニ反シ彼等ニシテ之ヲ欲スルナラバ、鑛山モ探堀サルベ
ク、造船業モ起ルベク、大旅館モ大劇場モ建テラルベキデアアル。元來需要(一般の購買力)ナルモ

ノハ社會ノ生産力ヲ左右スル原動力ニシテ甚ダ恐ルベキ力ヲ有スルモノナルコト、嘗テ余ノ論ジタル如クナルガ、更ニ資本テフ剩餘ノ一般の購買力ニ至ツテハ、ソガ剩餘タルノ性質ヲ有スルダケ其レダケ自由ニ社會ノ生産力ヲ左右スルノ原動力トナルモノニテ、最モ恐ルベキ力ヲ有スルモノデアル。

固ヨリ一定ノ社會ニ於ケル生産物ノ分量及ビ種類ハ一定ノ時ニハ一定シテ居ル。而シテ資本テフ一般の購買力ハ、社會ノ何人カノ爲ニハ剩餘タルモノナレドモ、而カモソハ既ニ述ベシ如ク單ニ準備財産トシテ死藏セラルルコトハ甚ダ稀ナルガ故ニ、必ズ何等カノ財ノ購買ノ爲ニ振り向ケラルルモノデアツテ、其點ヨリ社會全體ニ就イテ觀察スル時ハ、實ハ何人ノ所有ニモ屬セザル剩餘ノ財ナルモノガ存在シテ居ル譯デハ無イ。一定ノ時、一定ノ社會ニ生産サレタ凡テノ財ハ、其時其等ノ財ノ購買ニ振り向ケラレタル一般の購買力ニ依ツテ凡テ買ヒ取ラレテ仕舞フ。サレバ一定ノ財ヲ一定ノ購買力ニテ買ヒ取ルト云フダケノ事ニテ、別ニ資本ノ利用ニ社會ノ生産力ヲ左右スルト云フカハ無キヤウナレドモ、之ヲ經濟的ニ一定ノ期間ニ亘リテ考フレバ、吾人ガ物ヲ買フハ其物ガ生産サレ居ル爲ニ非ズシテ、實ハ吾人ガ之ヲ買フガ爲ニ其物ガ引續キ生産サレテ行クノデアル。斯カル意味ニ於イテ一般ニ需要ナルモノハ社會ノ生産力ヲ左右スルノ原動力トナルモノナレドモ、殊ニ剩餘ノ購買力タル資本ナルモノハ其利用者ノ考ヘ一ツニ依リテ自由ニ社會ノ生産

力ヲ左右スルモノデアツテ、國民經濟上ニ於ケル資本ノ偉力ハ主トシテ此點ニ存スル。

* * * * *

(附記) 資本ノ利子ニ關スル學說ノ中、茲ニ述ベシ資本ノ概念ニ關聯シテ思ヒ出サルモノハ、所謂『貨幣說』(money theory)ナルモノデアアル。茲ニ利子論上ノ貨幣說トハ、利子歩合ノ高低ハ貨幣(及ビ貨幣ノ代用物)ノ供給ノ多少ニ逆比例スト云フ說デアアルガ、余ヲ以テ之ヲ見レバ、元來資本ナルモノハ貨幣及ビ貨幣ノ代用物ヨリ成ルモノニシテ、且資本ノ利子ナルモノハ、一方ニ於イテハ其供給ニヨリ、他方ニ於イテハ其需要ニ依リテ決定セララルモノナルガ故ニ、畢ニ貨幣說ハ利子歩合ヲ決定スル根本的條件ノ一ヲ捉ヘシモノニテ、縱ヒ其說ニ茫漠タル所アリトハ云ヘ、決シテ之ヲ以テ全然誤謬ナリト爲スコト能ハザルモノデアアル。然ルニ「いしや」ハ之ヲ以テ一謬說ニ過ギザルモノト爲シ、其著『利子歩合論』第十六章 Inductive relation of "money theory" ニ於イテ、種々ノ統計的事實ヲ擧ゲテ其然ル所以ヲ論ジテ居ル。⁽¹⁾ 乍併、余ヲ以テ見ルニ、氏ノ所謂歸納的論證ナルモノニハ立論上甚シキ缺點アリテ、未ダ之ヲ以テ貨幣說ヲ排斥スルノ材料ト爲スニ足ラザルモノト信ズル。而シテ現ニ「いしや」自身ノ言ニ依ルモ『論者ガ之ヲ事實ニ依リテ論證シ得ベシト主張シ得ル唯一ノ說デ、且多數ノ實際家ノ信ジツツアル所ノモノハ、利子歩合ハ貨幣ノ數量ト逆比例ヲ以テ變化スト云フ說デアアル。此說ハ、過去百年以上ニ亘リ類リニ經濟學者ノ排斥セシ所タルニ拘ラズ、今日ニ於イテモ猶多數ノ實際家ノ間ニ勢力ヲ有スルモノデアアル』ト云フノデアアルガ、余ノ考フル所ニ依レバ、此ノ如キハ必シモ實際家ノ愚カナルガ爲ニ非ズシテ、全ク經濟學者ガ資本ノ本體ヲ誤解シ居レルガ爲デアアル。是等ノコト、本論ト同時ニ「商業及經濟研究」第三冊ニ公ニセシ拙稿『利子論上ノ貨幣說』中ニ略述セルガ故ニ、茲ニハ其委細ヲ略スル。

(1) Fisher, Rate of interest, p. 317 ff.